



發行所 中浦原郡卷町公民館  
保刈群司  
新潟日報

### 自治体警察二週年に當つて

卷町警察長 小林 周 策

地方自治の意義を推進する原則に基き國民の崇高なる權利と自由を完全に保護し得る警察の確立を自途としてわが國警察史に劃期的な警察制度の改革が行われ、舊來の國家一元的の警察操作から民衆の輿論を反映する公安委員會制度の下に、所謂自治体警察として卷町警察が發足し以來この三月で、滿二周年を迎え、偶々初代署長のポストを迎えられ警察執行務の責任を擔う私からこの機會において日頃寄せられる町民各位の厚意と協力を謝し、併せて各位の警察に對する理解と認識を深め、惜まざる協力を今後も續けて戴き、眞に町民の民主警察の確立を期したい念願から今一度皆さんと共に新警察の制度とその在り方などについて考えてみたいと思ふのであります。

由來警察とは、社會通念によれば泥棒を捕え、人の生命財産を護り交通を整理する等治安の維持がその目的であり使命であつて今日と雖もそれは變らぬところであるが、かつての警察操作や組織が國家の行政機關の一環として中央集權的であり、官制的であつて、警察國家と極論

の新警察の根本原則ともいへき第一の警察職務の範圍は、舊制度の警察は前に述べたように、時には行政上の便宜から警察本來の使命の外に所謂助長行政的の事務迄も受持つたためにもすると警察が不當に、國民の權利、自由を侵害する虞れがなかつたとは言ひ得ない點が多分にあつたので、先づ警察の職務の範圍を明確に定め、警察法の第一條に「警察は國民の生命、身体及び財産の保護に任じ、犯罪の被告、被殺者の逮捕及び公安の維持に當ることを以てその責務とする」と規定し、警察本來の使命と責務の範圍を嚴格に限定して、而も同條第二項には「警察の活動は、嚴格に前項の責務の範圍に限られるべきものであつて、いやくも日本國憲法の保障する個人の自由及び權利の干渉にわたる等その權能を濫用することとなつてはならぬ」と堅くその職權の行政を戒めて居るのであります。

然しこれも當時の日本を考へて今更言々するの要はないと思ふが、兎に角かような形態を持つた警察も敗戦という冷徹な事實により、かつては不磨の大典として宣布された明治憲法が民主主義を基盤として主權は人民に在りとの誘いと襟持を以て文化國家、平和國家再建を指標として公布された新憲法の精神に従い地方自治の眞義を推進する目的を以て、新たに新警察法が制定され従來の中央集權的、官僚的の日本警察は正に一八一〇度の大轉換を遂げ茲に新しい形態を整つて生れ出たのが今日の所謂民主警察であります。

これに對して新警察法に對する概念だけ一通り申し上げたのであります。いふまでもなくこの新制度の中核をなすものは自治体警察(都市警察)であり、これが日本の治安維持の將來を決するものであつて、同時に又地方自治の振興に大きな一役を演ずるものであると思ふのであります。いかにその制度が立派なものであつても所詮それは運営の問題であり、その運営は又人の問題であつて、その成果を擧げると否とはその術に當る者の自覺と責任に俟つ以外にないと考えられるのであります。従つてその責を受持つ私共は、この新制度下における警察能率の觀點と警察民主化の見地から新制度の意義と自治体警察の本質とを充分検討し、深い自覺の下に正しい行き方を考へて日常の執行務に當らなければならぬと思ふのであります。

然らば新警察の在り方とは何か、それは前述の自治体警察の本項に徴し、警察法に示された責務の範圍を完全に遂行することであつて、私共は常にこれが實踐と具現に向つて最大の能力發揮に努めなければならぬ。若しも假りに民主警察の解釋を誤るものがあつてその執行が退

要的であつたり、職責を自覺することなく徒らに民衆におもねたり、ただ事なかれ主義の態度を採つたり、公僕たるの意義を失ひ民衆に一方的の權力を強いたりすることが民主警察の在り方ではないか等と信じたり、又は信する者があつたらどうでしょう。それこそ警察の威信の問題だけでは済まされず、その村、その國の秩序は忽ち崩壊の外何ものもないことになるであらう。

私共は民主政治の奉仕者として常によくその身を慎しみ、その正道を踏むに反省の謙慮を示し民衆と共に悦び、民衆と共に憂ひ、公安維持の前には何ものにも恐れず、何ものにも囚はれず、ただ良心にのみ従つて正しく、強く、朗らかに町の護りの前衛としてたゆまざる歩みを續け、以て一萬二千町民の期待に應へる事こそ新しき警察の在り方と信するものであります。

### ◎スポーツ◎

二月十九日郡連青年團、公民館主催、球技大會を卷小学校に於て開催、籠球は大野青年團に、卓球は熱戦の末男女共に卷町青年團が優勝した。  
籠球 決勝 大野43-41卷  
卓球男子決勝 卷A3-1大野  
卓球女子決勝 卷3-1小池

町會だより

二月十九日 保育所工事委員会設計圖、内評書を詳細検討の上二十三日請願人札に付す事を決定。二月二十三日 保育所請願人札執行、入札者十二名、再入札の結果金六十九萬五千圓で新野興業株式会社に落札。二月二十七日 町議會二月定例会(出席十九名) 一、町國保條例改正條例設定、私診療を診療中から除外したが國保連合會並に醫師會でこれの除外は適當でないとの意向で診療中に含めることとし、被保険者は初診療費五割を負擔することになった。二、公安委員の任命 任期満了の齋藤順作氏再任命について同意を與える。二月二十七日 全員協議會 一、農芥處理 町會とし手車大森により保育所、中学などの掘上げ箇所の埋立をなす。二、小學校の机、椅子五十箇を新調する。三、都市計画法、市街地建築物の施行については土木委員會で研究の上採否を決定する。四、驟前のアスファルト改裝は、町負擔金が多額のため、二カ年延期する。

運動場は始の予定では二十四年度中に建つはずだったのでありますが今年中にはものになりません。子供たちのためにもまた現在の校舎のためにも一日も早く作り度いところで第一期工事のための借金も町民税を増して漸くその三分の二を返却出来るような現在の町の財政状態ではどうしたものでしょうか。 今後はこの問題につきお互によく考へてみたいと思ひます。 一、「新制中学の屋内運動場は二十五年中に建てるか或は見送るか」 ①二十五年度中に建てる 小林 十四三 ②見送る ③當局に委せる ④分らない 一、二十五年度中に建てる 小林 紫一 二、二十五年度中に建てる 加藤 弘明 三、二十五年度中に建てる 小林 一郎 四、二十五年度中に建てる 内藤 徳松 一、見送る 小林 太蔵 二、見送る 白崎 一二 三、見送る 松村 アイ 四、二十五年度中に建てる 矢部 ウタ 一、當局に委せる 幸田 久作 二、二十五年度中に建てる 長島 間吉 三、見送る 佐藤 秀雄 回答なし

雪によせて 西村 弘子 四、五日暖い日が続いて、道路が白く乾いてくるともうすっかりあの冬から解放されたのだと何かしらホッとした気分になる。そんな時思い出したように降る雪ほど心細いものはない。 同じ雪でも初雪の頃は、屋根にも木の枝にも積り、地上のきたないゴミもすつきり、白一色におおいつくしたのを見れば、その美しさは千度、お芝居の書き割りを見るように心楽しいものであつたが、雪はやはり冬のもので、季節にはつれづれと春の雪などは少しも美しくない。 朽葉の下からのぞく露の露の線に、萌え出た草の芽に、そしてあの爛漫たる春がくると、雪のことなどケロッと忘れてしまふ。 ても越後に住んでいる以上永遠に雪と共に生活しなければならぬ筈なのに、この町には雪を樂しむ施設がないのは、どうしたわけなのでしょう。

公民館だより 第四回討論會二月二十八日夜公民館に於て、新制中学の屋内運動場は二十五年中に建てるか或は見送るか、町民により第一番の講師は、町議の佐藤秀雄氏、まず町民の念に燃える町民にして中学屋内運動場の建設を望まね者なしと確信する。昭和二十二年六・三制の實施以來の學業の狀態を中學建設の費用貯金のよくなされてない事は非常に遺憾だ。かゝる状態から中學屋内運動場建設は見送る。 第二番に漆山中學校長小林榮一氏學校の狀態をよく見てやつてくれと數字を上て説明、雨天

の時は一、二カ人が兒童の遊び場で一坪十人平均で衛生的から、ガラス、机等の破損は年間相當の額になる。郡内各中学費の現状と最後に町民の皆さんのヤリ方如何が建設を左右する、是非今年中に建ててくれと結ぶ。 最後に町會議長小林十四三氏の財政状態並に建設内容を示し上げてみなさんの了解を得たい。普通建築にして三百萬圓、鐵骨梁にして四百萬圓、その財源としては寄附金、借入金等は望めないで一般會計から出すとして來年度の収入は平衡交附金を含めて、約千九百九十萬圓、支出は今のところの要求額は大体千五百萬圓、よつて残りの四百萬圓で第二期工事は完成出来るのではないかと思はれるが、これはあくまでも稅收の確保、支出の程度の切り詰めを前提としてゐる。 終つて質問應答あり十時散會す。聽衆者約百三十名、三月二日午後一時公民館に於て公民館運営審議會を開議、出席十六名、先づ江端助役の審議會の主旨につき説明あり、二十四年度の経過報告、公民館長の選出につき協議、満場一致齋藤前館長を再選する。續いて委員長は選衛委員を上げて審議の結果小林十四三氏に決定。二十五年年度の事業計書を審議し散會した。 二月十日 歌留多大會農協に於て参加人員四十名 一等 佐藤カズ(一、般) 二等 平野キヨ(新中生) 三等 平野ミチ(一、般) 四等 小泉和子(新中生) 五等 藪谷百代(新中生)

思いついたまま

吉田 桂子

いつの日かラジオで聞いた話だが小田急沿線神奈川縣澁谷川附近と、この町を境として横濱寄り結婚式にお金をふんだんに使ひ反對側は虚禮廢止を叫んでゐるといふ。或る家で息子の結婚式を派手にやり度い、一組の老夫婦が嫁入りに入つたところ、虚禮廢止地區に入り込んでしまひ、辨當だけ食べて引上げたと言ふ作り話の様な實話がある。

當地方にしたとて、これに類した事はいくらかもある。昨年婦人會で結婚費用や娘を嫁がせた後、赤ん坊の着物一切、ベビーダンスと言つた具合に親の負擔を無くするため止めませうと決議したと言ふもの、今、尙お嫁にやつて借金に困つて居るなど、聞けば如何した事だらう。やれ税金が拂えぬ、配給を受ける金が無いと居つて居ながら斯る事には一向無關心なのは不思議にたえない。結局主婦としての決断力が足りない故だと思はれる。実行力のない事には何を決議したとて無駄でないでせうか。 口先ばかり良い事を言つて裏では何の事もない悪口雑言で平氣な者が多い事は誠に救はれない事である。 又最近種々の事で問題になつて居る教育面であるが、一教育は學校の先生がするもので、教育の良し悪しは先生の責任であるかの如く考へ、家庭にあつては子供達を一つの型に鍛込まう

として得意然として居る向きが多いのに驚く、勿論教育は學校と家庭とが一体になつて始めて實がり視て居ると、表面的な事は全然反對方向に歩いて居る事がある。うちの子供に限つてと思つて居るのが案外飛んでもないのが多い、子供はのびのびと育つて男女共学であるが、年頃になつて男女何處に一人出しても安心出来る人間に教育してゆき度いと思ふ。たい恐れをなす事、善悪を見極めず排斥するのは以ての外だと思ふ。一家團圓の内に今の政治方面世の動きを眺め各々の趣味について朗らかに語り合ひ、新しい日々を送る様に務めたい。 親自身が子供を現代文化に融和させる程の勇氣が欲しい。

保育所に對する希望

中野 よし

昭和二十五年年度の事業として獨立公民館、運動グラウンド、新制中學校屋内運動場、圖書館等々ほほしいものが数多い中に於て保育所の設置議決を見た事は家庭の主婦と致しましてどんなに嬉しかつた事か。 昨今の町財政の下に於ける實施議決は厚生民生委員、婦人會等各關係團體の絶大なる御勞苦に對しまして深く感謝いたします。 つきましては私共各町の保育所をして最も意義あるものとして頂き度いと希ひます。 町民の一人として希望致した事は飽くまでも勤勞者階級を對象として保育所を運営して頂

きたいのであります。 保育所と言うと私共は都會の幼稚園式ものが考へられますが、其れも小學校に入學する道程に於ける集團教育の一つの方法としては大いに其の重大性を認められませんが、そうなるや勢利用範圍が狭められるのでは無いが、實際に活用しなければならぬ者が利用せず、何故利用しないのか、利用しない者が悪いと言ふ事もあるであろうが然し一概に責められぬ事情もあると思ひます。 例を上げるなら従来の季節的の保育所を見るに先づ時間が問題であると思ふ。朝の八時から夕方の四時までは農繁期に於ける農家は、朝は未明より夜の手許の見えるまでと言ふような状態でありませう。(最もかような昔作らの非科學的な生活は年々改善されつゝありませう) それから衣食の問題とがありませう。一般商人の子供たちは割合にござい、時には親たちも一緒に打興して居る事も出来ようが、それに反して猫の手もほしい農家の子供たちであれば洗濯も意の如くにならず、種々と面倒をみてやる事も出来ませぬ。したがつて適當の對象が純眞なる幼兒たちにどのように反映するかを思ふ時、ある何にもかを深く感ずるのであります。 出来れば私共勤勞者のために保護児童全部に給食(晝食)を與えて頂きたいのであります。 私たちは望みませんが、町の事業

にして何をやるにも先づ敷地が問題になります。農家にとつては一番大切な苗代とか、一等田が要求される場合が多いのであります。(商人ならば大事な店の一部であります)こと巻町の發展とあらば、ある程度の犠牲は甘んじて受る心構へは何時でも用意して御座居ます。 昔から正直者に馬鹿をみせるなど言われておりますが、町當局並に有識者各位に於かれまして何卒最善の施設と方針で最も民主的に保育所なるものを運営して頂きたいと切望して已まない次第で御座居ます。 公民館運営審議會も生る 社會教育法の實施に伴い巻町でも昨年十二月「巻町公民館條例」を制定告示した。また新たに運営審議會を置くことになり、巻町内の各種團體の代表並に學識經驗者諸氏を委員に推薦し、條例に基づき必要な機構の一部を改革した。 審議會は館長の諮問に應じ、公民館における各種の事業の企畫實施につき調査、審議するものである。 巻町公民館長 齋藤 順作 運営審議會委員 社會教育法第三十條第一項第一號委員 笠原 俊才 田中 安定 同條第一項第二號委員 小林 清策 本間 孝一 高田彌雄司 本間竹三郎 池上 治郎 佐藤 秀雄 水倉 六郎 中野 よし 石山 欣彌 長島寛治良 食品千代子 松村 アイ 同條第一項第三號委員 長嶋太郎一 河治 忠

婦人會

昭和三十五年年度總會のお知らせ

巻町婦人會が結成されてより満一カ年目の總會が去る二月十二日午前十時より小學校音楽室に於て開催された。予定の時刻には百余名の會員が參集、顧問の等原小學校長の臨席を得て定刻に至るや、横田理事の閉會の挨拶、續いて議長の選出に關して出席代表より動議があつて倉品會長を推薦し議長席につかれた。 次に松村副會長の廿四年度経過報告、藤田理事の會計報告を終り、役員の改選に入り會長、副會長、理事の選挙にうつり左記の通り決定す。 會長 食品 千代 副會長 松村 アイ 理事 各區より二、三名入り會則變更の件と廿五年度予算承認の件につき慎重審議の結果、原案の一部修正を行ない可決確定した。 最後の會員の聲(今年度への希望)では赤サビ區の理事より農閑期を利用して修養の途を開いて貰いたいと強調、なごやかな裡に正午二時總會を閉じ、午後第二運動場に於て宗教連盟理事齋藤寺の安藤師の講演、藤間流の舞、會員の歌謠曲等々あり盛況裡に散會す。

讀書隨想

民族の微苦笑

(光文社版)

荒垣 秀雄 著

三月三日夜の引揚者を圍む座談會は近來になく意義深い催しであつた。申譯ない次第だが実はどうせ在ソ苦心談を聞く程度のもので思つていたが、どうしてそんなものでなくみんな健康そうでテキパキと活潑に發言して三時間近い會が少しの退屈さもなく感じさせなかつた。この中で特に感じた事は割合若い人達ばかりであるにも拘わらず物を見る眼、物を批判する精神が相當高く磨かれていたという事であつた。而も語る内容にしても決して思想だけが先走つてゐるといふのでなく、常に具象的な裏打ちを持ち、例へば歸還後の環境、希望等を語るにしてもその中に必ず自分の経験した、或いは経験しつゝある生活を通じて揺がぬ自己を確立してそこから批判に出発してゐるといふ感

を強く受けた。この夜歸つてから思つた事だが人間が眞に人間であるためには常に何が正しいか、何が美しいか、何がほんものか、にせものかという事を常に見究めてその中から自分の進む道を見出して行かねばならぬということであり、人類の福祉といふ、戦争といふ、平和といふも実は國民一人々々の批判精神の高低によつて決まるといふ事であつた。「民族の微苦笑」は最近手にした本だが、實は朝日新聞の「天

聲人語」の披萃集録である。天聲人語の愛讀者には二番煎じの感は免れないが、斯うやつて纏つたものを見ると亦こゝろ、二年の日本民族の鼓動がひびくと感ぜられるよう興味深い。著者は「戦争は常に鬼面を著者と驚かすような恐い顔をして近寄つて来るものではない、時には白粉をつつけ口紅をぬり美装をこらしてやつて来る。美しい哲学、おもしろい政治家がその露拂い後をして人々の心をたぶらかす、次の戦争はどんな美人に化けて近寄つて来るか分らない。その化けの皮を見抜く目がないと知らずく」に戦争に三味線を合わせることになる」(二四八頁)

チヤートナリストの出ではあるが高いヒューマニズムの根底に立つて鋭い諷刺や、ユーモアの中に人間を愛し、社會を愛し、平和を愛する著者の風格は好ましい。(河治忠)

二千冊突破運動 寄贈圖書

- ツールの司祭 バルザツク
- 演劇の門 栗原 一登
- カント純粹理性批判 佐竹 哲雄
- 平和の發見 花山 信勝
- 自由の哲学 戸項 重基
- イェス傳 矢内原忠雄
- 音楽の知識 門馬 直衛
- 歌舞伎講話 河竹 繁後
- 社會文化と人間改造 帆足理一郎
- 讀者と人生 三木 清
- 西洋哲學史 帆足理一郎
- 百萬人の哲學 山崎 謙
- 日本書道新講 吉澤 義則
- 蒙古草原 齋藤順作氏より
- 軍津外科雜記 米内山康夫
- チエイムズハーボウル 松田 壽男
- 漠北と角海 田邊 元
- 最近の自然科學 塚本 隆二
- 死に勝つ クロポトキン
- 相互扶助論 セザンヌ 有馬 生馬
- 秋、すすき 久保田萬太郎
- 基督教社會化理論 菅 圓吉
- 基督教と資本主義 菅 圓吉
- 基督教の轉向とその原理 吾妻 東一
- 社會的基督教と新しき神の體驗 中島 重
- 齋藤貞一氏より
- 日本の探險 原田 三夫
- 少年昆虫記 芹澤 喜三
- 虎 バイコフ
- 豆の一生 服部 靜夫
- みんなも科學を 緒方 富雄
- ふるさと 島崎 藤村

市日隨想

筒木 甚一 郎

齋藤明子氏より 横山美智子 日本少女の關係上發表出來ぬ方々にお託申上ます。

長い傳統と歴史を持つた四、九の市日が商工会の肝入りで露店商と協議の上、五、十の日に改められたのは終戦間もなくであり、そして実施されて二カ年の體驗を経た譯である。四、九の日が地藏堂、加茂、白根と同日であるため露店商が分割されるのである。露店の有無に依つて町の繁榮は左右される譯だし、五、十の日は在郷の休日に當る事でもあるので客の出足もよいのだらうとの見解は、一應今日成功したかの感じがするのである。併し最近の目覺しい露店の進出は地元商人の驚異となり、それが又一つ大きなのしかつて来る重荷の様な錯覺を起しつゝ、あるのではあるまいか、又一面これが現実でもあると思われ。

敗戦に依つて露店商人は確かに増えた、色々原因もあるだらうがとにかく露店商進出に依つて市日は賑やかになつたのである。それに於て来る在郷の人達が普通の店より露店の方が安いと言ふ様な氣持をもちつゝ、ある。それは全面的に否定出來ない現状であるから、如何にしてそれに對抗して客を吸収するか、如何にしたら安く商品を仕入る事が出来るか等が目下のことろ一般店舗の大きな一つの課題だと思ふ。良品を如何に安く

短歌

入日 淺野敏朗

菜の花のかけをうつせるピーカ  
に硫銅液が沸騰しはじむ  
卵黄色の月か曾を離れてさり殘  
照はしばらく藤の葉にあり  
砂山を吾と歩める師の眼鏡ある  
位置にして入日とはじく

白崎哲夫  
珍らしき冬のひかりが黒板に向  
へる教師の背をあた、む  
つかれたる鈍き脳裏にこぼろぎ  
のつが空をふるはせて行く  
紅雲をばらまき散らし夕空のか  
なはのはてを去りし太陽

編集後記

私たちの生れた町、そして育てられたこの町はどうしたらもつとよりよい町にする事が出来るかという問題は最も私たちの關心事の一つという事が出来ましよう。

新鮮な企画と豊富な内容によりみなさんから充分に喜んで見て戴ける「まき」を發行したいと考えて居ります。